

【5】持続皮下インスリン注入療法

(CSII : continuous subcutaneous insulin infusion)

5-1. 概略

持続皮下インスリン注入療法 (CSII) は、インスリンポンプを用いて皮下に留置したカニューレから24時間持続的にプログラムされた量の基礎インスリンを注入するとともに、いつでもボタン操作のみで追加注入が可能な方法である (図5-1)。使用するインスリンは超速効型インスリン1種類である。特に内因性インスリンの枯渇した1型糖尿病患者ではその有用性が多くの研究で示されている。また、膵全摘後のインスリン導入においても選択肢の一つとなる。

本章では、CSIIの適応および方法を簡単に紹介する。実際に使用する場合は、DSTへのコンサルトをお願いしたい。

5-2. 適応⁵⁾

- (1)従来インスリン頻回投与方法では十分な血糖コントロールが得られない不安定型糖尿病
- (2)手術前後の血糖コントロールのため
- (3)糖尿病妊婦などの厳重な血糖コントロールが必要とされる場合





5-3. 使用条件

- (1)CSIIの意義と危険性を十分に理解できる人
- (2)血糖自己測定を確実に行うことができる人
- (3)インスリンポンプを適切に扱うことが可能な人

5-4. 方法 (詳細はメドトロニック社 ミニメド 620G インスリンポンプ使用説明書参照)

- (1)専用のシリンジに超速効型インスリン (ヒューマログ) を吸引する。
- (2)皮下に挿入したカニューレとインスリンポンプを接続する。
- (3)基礎インスリン注入量および追加インスリン注入量を設定する。

(図5-1)

	スタンダード基礎注入	: 血糖値傾向に合わせてプログラムしたポンプによる自動注入
	パターンA基礎注入	: 休日の生活に合わせてプログラムしたポンプによる自動注入
	一時基礎注入	: 運動のため30分刻みで一時的に基礎注入量を変更
	ボーナス注入	: 食事の内容・量に応じてボタン操作で注入

